

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100513		
法人名	有限会社オオキタ・コーポレーション		
事業所名	グループホーム夢咲園		
所在地	岡山市南区浦安西町25-5		
自己評価作成日	平成 25年 7月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390100513-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390100513-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 8月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「咲かせよう！笑顔いっぱい 夢いっぱい」をモットーに ご利用者様、職員が共に助け合いながら生活する中で、ご家族や地域の方が訪問しやすい、明るく笑顔でいられる事業所を目指しています。  
 今年の目標は、「一人一人の出来る事への参加を支援し、楽しみのある生活を送っていただく。」とし、趣味や家事や出来る事への参加により自分らしさや、自信を持っていただけるような援助を心掛けています。また、前回のステップアップとして提案をいただいた個々の外出希望に対しても、担当のスタッフが計画して、地域とつながる外出や、家族とつながる外出など、ご利用者様の思いに添える外出支援を少しずつですが実現していています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした田園風景の中にあり、敷地もゆったりとした平屋造りの事業所である。季節を感じる事ができる広いウッドデッキ、高い吹き抜けの天井、大きな窓等、開放感にあふれた作りである。2ユニットの事業所ではあるが、ユニット間の仕切りの扉を開ければ利用者も自由に行き来することができる造りとなっている。職員もお互いに協力し合って利用者に関わりを深めるなど自然にユニット間の交流が図られ、顔なじみの関係ができています。また、椅子に古くなったテニスボールをかぶせて不快な音の予防や台所へ入るときには専用の靴に履きかえるなど、細かい配慮もなされている。毎日の日課の中に職員のかけ声に合わせたタオル体操を取り入れるなど、利用者の健康管理や身体機能の維持にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての事業所の理念を職員全員に認識させている。職員で考えた理念に基づいた目標に向けて実践している。	理念をスタッフルームに掲示し、職員は念頭に置き、支援に努めている。また、定期的な勉強会で理念について考える機会を設けている。新入職員にはオリエンテーションを利用して理念について教えている。職員一人ひとりが理念に則った年間目標を立て、利用者の気持ちに添った支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の受け入れや地域の公民館活動に参加し、地域とつながり、ご近所同士が顔なじみになれるよう交流している。	町内会に入会しており、お祭りや敬老会などの行事にも参加している。また、民生委員が中心になって活動している浦安公民館の「いちごサロン」にも毎月参加している。訪問者も多く、地域とも交流も徐々に盛んになってきている。昨年度から中学生の職場体験も受け入れており、今年も継続している。	保育園や小学校との交流の場が少ないとの事。運営推進会議で築いた人脈を利用して交流できる機会を検討してみてもどうでしょうか。また事業所内の文化祭を発展させて利用者のみなさんの手作り作品(習字・俳句・手芸)を公民館や地域の郵便局、信用金庫などに展示してもらい、事業所を広く理解してもらうきっかけ作りにはどうでしょうか。今後に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	四季折々の行事に近隣の地域の方々や多くのボランティアの方々にご参加いただき、ホームの様子をより知って頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を知って頂いたり、取り組み内容やこれからの課題を話し合い、助言を頂くようにしている。また、会議で取り上げられた検討事項については、経過を報告していき、サービスの向上に努めている。	2か月に1回開催している。地域包括支援センター、町内会長、民生委員、南福祉事務所、家族の代表者、他小規模多機能センターの職員、外部評価員等、出席者は多彩なメンバーとなっている。内容も利用者がいちご狩りで採ったいちごで作ったいちご大福の試食会をしたり、避難訓練を実施し反省会をしたりと内容の濃いものとなっている。議事録も解りやすい内容になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には手続きの機会等に、利用者の状況について相談をしたりしている。運営推進会議ではホームの様子を見て頂いて、交流を図るようにしている。	市の担当者には必要時には電話で質問等をしている。また、研修の案内、感染症の情報等の連絡もあり、良好な関係ができています。福祉事務所の担当者も協力的である。地域包括支援センターとは地域の様子などを情報交換や空き状況の連絡等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員や、社内研修で「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに指導し、理解を求めている。定期的な勉強会で全職員に身体拘束について話し合い、職員の共有認識を図っている。	身体拘束について定期的に勉強会を実施している。また社内のガイドラインも設けている。新人研修も行い、周知徹底を図っている。事業所は昼間は玄関の施錠はしていない。やむを得ず拘束をする場合には現状でよいのか定期的に話し合い、検討している。気になるケアや言葉かけがあった場合は、すぐに職員同士で注意し合える関係が築けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には「高齢者虐待防止法」をもとに個別で指導し、理解を求めている。社内研修や勉強会で全職員に高齢者虐待について話し合い、職員の共有認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要となった利用者や、制度を利用されている利用者がおられるため、職員に対しては説明し、理解を深め、利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明を行い、利用者や家族の方の疑問等には納得頂けるまで説明を行っている。特に、利用料金や重度化した時の対応方針については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には、ご意見・ご要望を積極的に聴くよう努力している。また、そのご意見・ご要望について職員で共有し、早急に対応するようにしている。	家族の訪問時に利用者の様子を伝え、家族の要望や意見を聞いたり、不安に思っていることや心配がないか等聞く機会をもつようにしている。出てきた意見や要望についてカンファレンスを実施し、できることは反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度経営者を交えて全事業所合同会議を行っている。ユニットカンファレンス、勉強会をそれぞれ月1回行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や要望を聞く様になっている。	年に1回の個人面談を実施し、悩みや思いなどを管理者が聞く機会を作っている。日々の業務の中での気づきや提案、アイデアなど各ユニットの主任が聞き、管理者に伝えるなど組織的に役割分担が整備されている。職員の意見で夕食の時間を5時半に変更し、利用者からも好評で定着した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ研修参加を促し、向上心を持って働けるように配慮している。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、モチベーションを高めていけるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、主任や先輩職員が新人トレーニングノートを活用し、マンツーマンでの指導を実施している。それぞれの職員の立場や経験に合わせて、社内研修に参加するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流の機会として、運営推進会議に出席させて頂き、意見交換を行っている。その中で、親睦を深め、連携が出来るよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご本人の思いを傾聴させて頂くよう努めている。事業所で出来る限りのことはさせて頂くことをお伝えし、安心感を持っていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何を求めているのかをゆっくりと話し、事業所として対応可能な事は速やかに実施する様にしている。対応が難しい事については、双方の妥協点を探し、納得出来るまで話をする様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意見、要望を第一に優先する事は大事だと思われるが、ご家族を中心に協力者の支援がどの程度得られるかを見極め、ご本人と納得出来るまで、話をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩という考え方を職員が共有し、困った時には良き相談相手となってもらったり、共に支え合い感謝し合える関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を積極的に促し、本人の気持ちや職員の考え方をお伝えし、職員とご家族と一緒に本人を支えていく体制を築いていける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月には、ご家族と一緒に過ごして頂ける様に働きかけている。ご家族や知人に会いにいたり、電話や手紙での連絡を取り持つなど繋がりを継続できる支援をしている。	行きつけの美容院に行く、自宅へ帰って過ごす、墓参りに行く等、家族の協力もあり、実施している。毎月、絵手紙を書き、送っている利用者もいる。近所からの入居した利用者は地域の清掃活動に職員と一緒に参加している。友人、知人の訪問もあり、馴染みの関係が途切れないように積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士と一緒に過ごせるようなセッティングをしたり、関わり合いが難しい利用者同士は職員が間に入り、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了された方やご家族からの相談には、丁寧に対応させて頂き、出来る限りの情報の提供を行う様にしている。他の事業所に移られてからも、質問等に対しては解決の手段等の情報提供を継続的に行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりの中でご本人から話を聞く以外に、ご家族から情報を得て本人の思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	事業所の都合で一日の過ごし方を決めるのではなく利用者の生活リズムに合わせた生活が送れるように支援している。思いや希望をくみ取ることができるよう、日頃から寄り添い、共に過ごすようにしている。言葉でうまく言えない利用者には表情やしぐさの中からもその思いを理解できるように取り組んでいる。	『一人ひとりのできる事への参加を支援し、楽しみのある生活を送っていただく』という今年目標を作成し、職員は利用者が参加できる事を探し、楽しみをもてるよう支援しています。来客時に利用者がお茶をだす、公民館の活動に自主的に参加する、好きな手作業に取り組むなど利用者が主体となり、生活している姿を感じました。今後も発展していくことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取りにより知り得た生活歴をもとに、本人やご家族からさらに情報収集するようにしている。それによりご本人を理解することにつながっていることを職員が認識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握し、職員本位のサービスの提供にならないように努めている。利用者のちょっとした行動や動作を見落とさず、ご本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、小さなことでも即座に声にだし、職員でカンファレンスを行うようにしている。必要に応じて、ご家族に報告し、ご意見を頂いている。	各ユニットのリーダーが中心となり、ケアプランを作成している。担当職員が家族の要望や気づき、声、意見を持ち寄ってカンファレンスを実施し、プランに反映させている。医療面は主治医や看護師の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の暮らしの様子、職員の気づきや工夫を記録し、情報を共有している。それを基に生活援助計画の見直しを行い、ケアの統一を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の受診に関しては、ご家族による対応を基本としているが、急な受診でご家族が対応困難な場合には受診、通院の援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会の方や福祉事務所職員の方に参加して頂き、情報交換、助言、協力を頂いている。町内会活動にも参加させて頂き、地域とつながっていけるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族へ入居契約時にかかりつけ医の往診が可能か、夜間でも連絡がとれるかを確認し、可能であれば継続してもらっている。現在の利用者は、全員協力医療機関となっている。	希望があれば、入所前のかかりつけ医継続も可能である。協力医療機関からの週1回往診、定期検査(血液検査3カ月に1回、レントゲン随時、心電図年1回)により健康管理を行っている。夜間や急変時なども連絡すれば対応してもらえる体制を整えている。他科受診については基本的に家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が勤務時に最近の健康状態を詳細に伝え、対応について協議している。往診時に必ず付き添い、主治医に必要な報告、相談をし、指示を頂くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、2～3日おきに様子を見に行くようにし、状態の把握に努めるようにしている。また、1日も早く退院できるよう、担当医やご家族と情報交換を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を踏まえ、主治医・職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられる様に、随時意志を確認しながら取り組んでいく方針である。可能な限りグループホームでの生活が継続できるよう、その都度職員全体で意識を共有するようにしている。	本人や家族の希望があれば看取りを実施している。その場合、利用者が安心し、より良い最期を迎えられるように、家族を交えて何度も話し合いを行っている。身体の状態についてはその都度医師から説明をもらっている。職員のスキルアップや看取り支援に対する不安を取り除くためにも段階に添った勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。救急搬送についても、勉強会等で周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者とともに避難訓練を行っている。内1回は消防署の協力のもと、注意事項について指導を受けている。運営推進会議では町内会の方にも協力を求めている。火災だけでなく、浸水に備えた避難訓練も実施している。	年2回、実施している。運営推進会議にて緊急連絡先に地域住民の参加や町内会の協力を要請している。埋立地でもあるので水害に備えて2階への避難誘導も訓練で実施している。また、避難訓練中の職員の動きや避難の仕方について地域の方にも参加して見てもらい助言ももらっている。	備蓄の食糧等も準備されたり、地域の方への協力要請など色々と考えられています。職員間の緊急連絡網も作成されていますが、スムーズに使用できるかどうか1度シミュレーションしてみてもどうでしょうか。メールの一斉送信なども利用されている事業所もありますが、夢咲園に最も適した方法を検討してみてもどうでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も言葉かけには十分注意し、1人ひとりが尊重された生活が送れるように、対応に配慮している。	認知症のケアについてはマニュアルもあり、声かけなど対応についても配慮している。職員も接遇マナーについても勉強もしている。利用者に対して気になるケアや声かけがあれば、職員がお互いにその場で話をしたり、管理者から注意したりしており、個人の尊重を意識した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあった言葉かけを行い、言葉での医師表示が困難な方でも表情や反応を感じとり、ご本人の希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、その日の気分や体調に配慮しながら出来るだけ1人ひとりに合わせた対応を心がけている。希望を尋ねたり、利用者のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる習慣のある利用者の方には、職員がお化粧をしたり、髪を結ったりとその人らしさが保てるような支援をしている。訪問美容ではスタイルの希望を一緒に伝え、1人ひとりに合ったカットをしてもらえようお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何らかの形で食事に関わりを持っていただき、楽しみや食欲につなげる支援をしている。野菜と一緒に収穫したり、献立を考えたりしながら(朝食は配食サービスを中止)、関心を持って頂けるよう支援している。	朝食は手作りに変更をしている。利用者にもできるだけ参加してもらっている。畑の野菜収穫、下準備、テーブル拭き、献立を一緒に考える、献立をボードに書く、お盆拭きなどなど一人一人ができる事を役割分担し、取り組めるように支援している。日々の食事は職員も利用者と同じものを一緒に食べ、お互いのコミュニケーションの時間となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や好き嫌いを把握している。そのため、それぞれの方に合った食事の形態や介助方法で提供出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事ごとに口腔ケアを行っている。また、口腔内に異常が見られたら早急に歯科往診をしていただける体制をとっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりに合った排泄援助をしている。排泄サインも個々に異なるため、職員がそれを把握した上でその方に応じた対応をしている。排泄動作においては、さりげない言葉かけを行いながら自力で出来るよう見守っている。	排泄チェック表を作成し、利用者の状況に応じてトイレ誘導をしている。病院で紙パンツを使用していた利用者に対し、失敗しても安心して排泄できるように方法を探りながら支援した結果、布パンツで過ごす事ができるようになった例もある。トイレ内も尿取パッドなどプライバシーに配慮しながらも利用者が取り出しやすいような工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、トイレにて排便を促す様にしている。個々の好みに合わせた飲み物での水分摂取やブルーネなどを用意している。勉強会を行い、水分補給の重要性について職員同士で理解を深める様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者で入浴を嫌がられる方には無理強いないようにしている。入浴時間は日中のみの対応となっている。毎日、入りたい方の希望には添えていないが、ご本人と相談しながら出来る限り希望に添えるような支援をしている。	基本的に週に2～3回、日中に実施している。本人の希望や体調によっては回数や時間の変更もある。浴室は広く、浴槽周りにも十分なゆとりがあり、手すりも多く設置されている。身体的に介助が必要な場合も安全に介助できる造りになっている。希望者には入浴剤を使って温泉気分を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や生活のペースで午睡が必要な方や日中の活動に応じて個別に休息を取り入れている。就寝パターンを把握し、生活環境を見直したり、個々に対応を工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の内容に変化があれば、早急に職員に伝えて、状態変化の観察に努めている。また、個人記録ファイルに薬の説明書を保管しており、常に職員が見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴から役割を見つけ、畑仕事、家事、掃除等の参加や趣味の提供を行っている。毎月の行事の計画、準備の中で協力を求め、楽しみとして一緒に進めていくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から利用者の希望をお聞きして、外出の機会を作るようにしている。スーパーに買い物やドライブや、病院にお見舞いに行ったり、家族と協力しながら外出支援を行っている。	家族に利用者の希望を伝え、できるだけ一緒に外出できるよう協力してもらっている。職員が付き添い、嗜好品や衣類、趣味活動に必要なものなどの一人一人が希望する買い物にも行くことも多い。お花見や紅葉狩りなど季節に合わせた外出や外食など企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人とご家族に相談し、少額を手元を持って頂いている方がおられる。買い物に出かけられた際に自分で払って頂く様にしている。ご本人の安心の為に所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようにしている。手紙やはがきも希望時には購入して書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は室温や消臭に注意し、明るく安心して過ごせるよう配慮している。ホールは季節に合った飾り付けを行い、季節の花を絶やさないようにしている。	天井が高く、リビングは掃出し窓になっており、明るいと同時に避難する際も安全性が高い。広いウッドデッキではお茶や食事を楽しんだり、季節にはお月見をすることもある。利用者の手作りの作品が季節感をかもしだし、あたたかい雰囲気になっている。窓の外には広々とした田園風景が広がっており、利用者にとって心癒される風景となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファや椅子を適度に配置している。一人ひとりにあった椅子に座り変えて頂きゆったりと過ごせるように工夫している。利用者同士の関係性に配慮し、落ち着く場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人やご家族に家で使われていた家具を持ち込んで頂くように説明している。馴染みの物を居室に置く事で、居心地の良い空間になるように環境を整えている。	約6畳の広さでベット、ダンス、エアコン、カーテンは備え付けである。利用者に合わせてレイアウトは自由に変更し、使いやすいよう配慮されている。自宅から馴染みのものを持ってきたり、趣味の物や写真を飾ったりしている方もいる。その人らしい暮らしが見える部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方がご自分でテラスまで出れるスペース、段差への配慮をしている。トイレには「トイレ」と表示し、動線を考えた環境整備を行っている。混乱や行動の失敗が続くときには、その原因を分析し、改善を図るようにしている。		